

# 医療センター だより

No. **10**  
2016.7.25



## 理念

一日も早い社会復帰を願って、  
質の高い信頼される医療の  
提供に努めます。

## 基本方針

- 地域内で質の高い医療リハビリテーションを提供します。
- 患者さまの人格・人権を尊重し、患者さまの立場に立った医療サービスを提供します。
- 情報提供と十分な説明を行い、患者さまの信頼と満足に努めます。
- 知識と技術の向上を常に心がけ、医療の質の向上に努めます。
- 業務の効率化に努め、健全で活力のある病院経営を行います。

# 所長就任挨拶

平成28年7月から広島県立障害者リハビリテーションセンター所長に安永裕司先生（前広島県立障害者リハビリテーションセンター副所長）が就任致しました。

専門は股関節外科で股関節外来及び手術を担当しています。

以下、就任の挨拶です。

本年7月1日付けで広島県立障害者リハビリテーションセンター所長に就任いたしました。

私は2年前の平成26年4月に広島大学病院（人工関節・生体材料学講座教授）から当センター副所長として異動いたしました。この2年あまりの間、医師としては股関節疾患の手術を主に行ってまいりました。

当センターは、医療センター（160床）（高次脳機能センター（40床）を含む）、若草園（医療型障害児入所施設55床）、若草療育園（医療型障害児入所施設・療養介護60床）、あけぼの（障害者支援施設）、スポーツ交流センター（身体障害者福祉センターA型）で構成され、障害児・者の社会復帰のためのサービスの充実と中核病院として専門的治療のレベルアップを行い、県民の福祉・医療の向上に努めることが使命であります。

医療センターは、昨年までに東棟（1病棟、手術室など）の新築、西棟（外来、高次脳機能センター、管理棟など）の改築、西棟の西側の駐車場が完了し、患者さんには、今まで以上に快適に医療を受けていただくことができる環境が整いました。

大変充実した施設に加えて、整形外科、泌尿器科、小児科、神経内科、麻酔科、歯科の医師はそれぞれの分野で豊富な知識と高い技術を持っており、優秀で優しい看護師、療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、心理士、義肢装具士などの医療スタッフとともに最高の医療を提供できるものと確信いたしております。

患者さんならびに利用者の皆様には、お気づきのことがございましたら、ご遠慮なく近くのスタッフにお知らせいただくか、外来および病棟の意見箱に投書いただければ幸いです。



広島県立障害者リハビリテーションセンター所長

安永 裕司

## 副所長就任挨拶

平成28年7月から広島県立障害者リハビリテーションセンター副所長に宮下裕行先生と、志村司先生が就任致しました。

以下、就任の挨拶です。

私は平成15年に当センターに赴任し、主に膝、足の関節外科、外傷外科を担当して14年目となります。諸先輩のごとく卓越した力量は備えておりませんが、年を重ね、責任のある職責も担うべきとのことで、平成24年から医療センター長を務めており、この度は安永先生の所長就任にあたり、副所長（医療部門）を拝命いたしました。

私が当センターに勤務して感じたことは、整形外科中心に発展してきたおかげで、手術計画に融通が利き、頼りになる麻酔科医師のサポートがあり、整形外科に精通した意識の高い手術室スタッフがいること、各分野の専門医が充実していること、高精細のMRI・CTが当日でも可能なこと、リハビリ目的にスポーツ交流センターを利用できることなど、長年にわたって蓄積されたすばらしい人材やシステムがあるということです。私の経験では、整形外科がこれだけのびのびと仕事ができる施設は稀であり、当センターを築き上げた諸先輩に感謝する次第です。

当センターの近況ですが、指定管理者制度の第二期以降、県からの補助もなくなり、減価償却費として診療報酬の3.6%を納付するという厳しい経営環境の中、医療センターのリニューアル、高次脳病棟の新設と40床の増床、電子カルテの導入など様々な大事業が進行し、大きく変化をしております。

今後は、地域医療構想なる病床運用に関わる変革も待ち受けており、我々が有する最新の設備、優秀な人材、他施設にない特徴をいかして、適切な規模と運用を追求していく必要があります。新たな変化を拒まず、変わる環境に適応して、利用者が満足し他の利用者に勧めることができる信頼される施設として、さらに前進できるよう努力いたす所存ですので皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。



広島県立障害者リハビリテーションセンター副所長

宮下 裕行

平成28年7月より副所長を拝命させていただきました。

平成6年に初めて広島県立障害者リハビリテーションセンターに赴任して以来、あいだ2年間（国立太田病院勤務）を経て、平成11年より今度は療育部門の小児整形外科医としてリハセンター勤務を命じられ、平成17年より若草園長を拝命し11年経過いたしました。

前園長の片山先生から『困ったときの駆け込み寺であれ』『広島の不自由な児に普通の医療が受けられるようにがんばれ』などと言われてきた中、指定管理者制度による公設民営化で経営も考え、いろいろと制度も変わり、また入園児の重度重複化、被虐待児の保護目的などその役割の多様化への対応などを行ってきました。今後も障害児者の福祉施策の見直しで福祉行政が更なる変革を推し進めています。

そのような社会情勢の中、リハビリテーションセンターが生き残っていくために療育部門の経営基盤をしっかりと作り、決して仲良し集団にはならない、しかし働き甲斐のある職場、働きやすい職場を目指して、みんなが少しずつでも変わって進化していけるように、今までと変わらないスタンスで療育を司る一人として微力ながら努力してゆきたいと思っております。



広島県立障害者リハビリテーションセンター副所長

志村 司

当センターを支える!

## 職員の紹介

今回は、黒川看護部長の挨拶。

看護部長 黒川悦子

梅雨も明けつつ、徐々に本格的な夏を迎えておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。これからさらに暑さが厳しくなることが予想されますが、熱中症などに十分に気を付けながら、夏を満喫して頂きたいですね。

さて、私は平成4年に当医療センターに入職し、早いもので25年目を迎えています。年々看護を取り巻く状況は厳しさを増し、看護師への期待度も高まる中、私は人材育成や人材確保、職場環境の改善、他職種との調整、労務管理、安全管理等の管理業務を行っております。問題が発生し、うまくいかない時などは落ち込むことも多々ありますが、周りの方々の支援や協力を頂きながら、「ピンチはチャンス!! また頑張ろう!」と心を切り替え頑張っているところです。また、スタッフの元気に働く姿や、利用者から「元気になったよ」「看護師さんが優しい」「親切にしてもらって嬉しい」「リハセンターは綺麗になったね」などと声をかけていただくと、自分のことのように嬉しくなり、元気なパワーを頂いています。

看護部の理念である「利用者中心に、質の高い心あたたまる看護の提供をめざします」を旗印に、利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活ができるよう一丸となって質の高い看護を提供したいと考えています。さらに、日々の忙しい業務の中でも、利用者の喜びと笑顔で、スタッフの笑顔とやりがいを生み、「看護は楽しい」と仕事に誇りと喜びを感じて頂きたいと願っています。

今後も、当医療センターで働く職員方との連携を深め、利用者一人ひとりに対するサポートを充実させていく所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。



前列の中央が、黒川 悦子 看護部長

### 部署紹介シリーズ

第7回目は作業言語療法科です。

## 各科紹介

### 作業言語療法科



#### 作業言語療法科の理念

利用者とその家族の幸せのため、質の高いリハビリテーションを提供します

2014年10月に新しい訓練室になりました作業言語療法科では、現在13名の「作業療法士」と7名の「言語聴覚士」で日々患者様の支援をさせていただきます。

当科では、2つの専門職が協力して、県内外の頭部外傷や脳血管疾患等に起因する高次脳機能障害を有する患者様への支援は元より、パーキンソン病などの神経難病疾患・脳性麻痺・脊髄損傷・骨折や筋腱損傷といった整形外科疾患の方など、様々な疾患・障害に応じたリハビリテーションを実施しています。個別対応のリハ

ビリだけではなく、症状に応じて就労前トレーニングやコミュニケーション技術を高めるグループ活動を多く実施していることと、復職復学支援・運転再開の見極め等を行っていることは、他院にない特徴だと思います。

リハビリテーションには多くの職種が関わるため、当科では他部署との連携も重視しており、定期的なカンファレンスを持つことで連携を図り、その方にとってよりよい支援をできるように努めています。また、必要に応じて院外の機関(患者様の職場や学校の関係者、職業センター、

ケアマネージャーなど)とも連携し、患者様がスムーズに地域生活に移行できるようお手伝いさせていただきます。

患者様とご家族とのコミュニケーションを大切に、一人一人が豊かな生活を送れるように、リハビリテーションの進め方については患者様、ご家族の意見を十分に取り入れ、ご希望に寄り添えるような支援の提供に努めています。

皆様が幸せになれる為のお手伝いをさせていただくため、科員一同日々精進して参ります。よろしくお願いいたします。

# 平成27年度業務実績

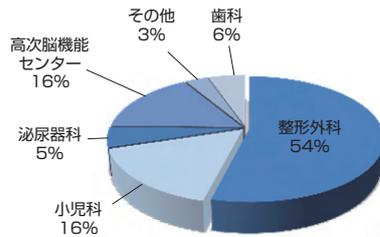
## 1. 外来患者の状況

### 月別患者数



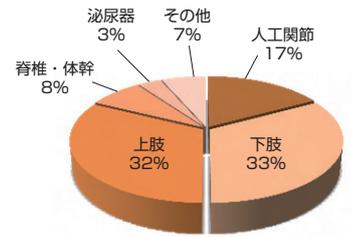
### 疾患別

診療科	人数
整形外科	28,751
小児科	8,616
泌尿器科	2,786
高次脳機能センター	8,580
その他	1,734
歯科	2,824
計	53,291



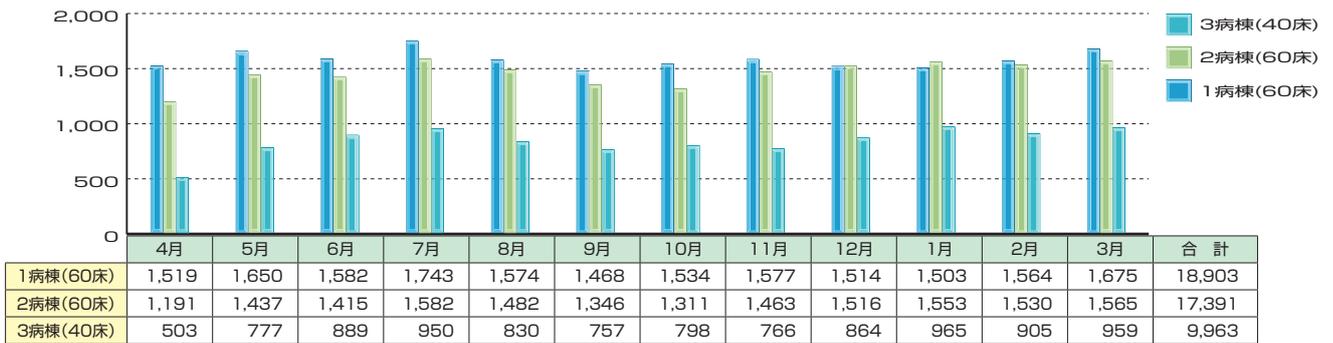
### 手術別

手術内容	件数
人工関節	237
下肢	457
上肢	449
脊椎・体幹	108
泌尿器	47
その他	90
計	1,388



## 2. 入院患者の状況

### 月別患者数



## ●無料送迎バス時刻表

### 西条駅▶広島県立障害者リハビリテーションセンター

区分	西条駅前	栄町	市役所前	自動車学校前	卯之留(うのとめ)	国際プラザ	西農前	リハセンター
	9:12	9:14	9:16	9:21	9:23	→	9:27	9:30
◎	10:00	10:02	10:04	10:09	10:11	10:16	10:22	10:25
◎	10:50	10:52	10:54	10:59	11:01	11:06	11:12	11:15
▲	11:42	11:44	11:46	11:51	11:53	→	11:57	12:00
◎	13:35	13:37	13:39	13:44	13:46	13:51	13:57	14:00
	15:50	15:52	15:54	15:59	16:03	→	16:05	16:08
	16:42	16:44	16:46	16:51	16:55	→	16:58	17:00

### 広島県立障害者リハビリテーションセンター▶西条駅

区分	リハセンター	西農前	国際プラザ	卯之留(うのとめ)	自動車学校前	市役所前	栄町	西条駅前
◎	8:33	8:36	8:42	8:47	8:49	8:54	8:56	8:58
◎	9:35	9:38	9:44	9:49	9:51	9:54	9:56	9:58
	10:28	10:31	→	10:35	10:37	10:42	10:44	10:46
▲	11:20	11:23	→	11:27	11:29	11:32	11:36	11:38
◎	13:00	13:03	13:09	13:14	13:16	13:19	13:23	13:25
	15:20	15:23	→	15:27	15:29	15:32	15:36	15:38
◎	16:10	16:13	16:20	16:24	16:26	16:29	16:33	16:35

◎：国際プラザ経由便 ▲：土、日、祝祭日運休便



## 交通案内

### ■「JRバス」利用の場合

JR西条駅から「黒瀬町市飯田・呉市」行き乗車。  
「県立西条農業高等学校前」停留所で下車。  
停留所から約1kmです。

### ■自動車の場合

山陽自動車道西条インターチェンジから  
国道375号線を呉方面に車で約20分、  
「西農前バス停」交差点を右折して約1kmです。

## 平成28年度 外来担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
整形外科	黒瀬 安永 宮下 岡 田中 兒玉	水関 渡邊 歌野原 谷本	水関 安永 藤井 田中	黒瀬 藤井 兒玉 谷本	宮下 岡 渡邊 歌野原
小児整形	志村	大谷	志村 (午前 ×) (午後予約)	志村 (午後予約)	大谷
リウマチ科	-	水関	水関	-	-
高次脳機能科 神経内科	村田 近藤 梅本	村田 近藤	村田 近藤 梅本	村田 近藤 梅本	近藤  細見
小児科	澤野	馬渡 須藤	川原	澤野 須藤	馬渡 川原
歯科	古胡	古胡	古胡	古胡 (午後 ×)	古胡 香川(隔週)
泌尿器科	薄井		薄井	薄井	薄井(午後)

※担当医は都合により変更することがあります。

### ●お問い合わせ先●

広島県立障害者リハビリテーションセンター  
医療センター

〒739-0036 東広島市西条町田口295-3番地  
電話 (082)425-1455(代表)  
FAX (082)425-1094  
URL <http://www.rehab-hiroshima.org>